

衛生士シンポジウム 2

患者さんと DH の信頼関係を深めるマイクロスコープメンテナンス

大野 真美

カガミ歯科医院（大阪府）

なぜ10年以上マイクロスコープを使用したメンテナンスを続けることが出来たのか？それは、マイクロスコープを使用したメンテナンスが「術者側の歯科衛生士にとっても受ける側の患者さんにとっても価値がある」という揺らぐことのない思いと確信があったからです。マイクロスコープを使用するようになって、私には多くの「気づき」がありました。口腔内は狭くて暗い場所です。ですから本当は細部まで見ることは難しい。しかし、なまじ視力が良かった私は、肉眼でなんでも見えているような気になっていました。ところがマイクロスコープを使用するようになってみると肉眼では気付かないことが沢山あることを思い知ったのです。肉眼では見落としていたレントゲンには写らないレベルの歯石やカリエスが見えました。不適合補綴物や充填物になると、数え切れないほど見つけました。マイクロスコープによってそれらを確認出来たとき、これまでの自分の診査に対してのショックもありましたが、同時に今後歯科衛生士がきちんとマイクロスコープを使用出来るようになれば、メンテナンス時の口腔内診査は正確で精密になることを確信しました。マイクロスコープ使用により正確さと精密さが増す業務はたくさんありますが、中でもメンテナンス時に行う超音波スケーラーを使用した歯周ポケット内のイリゲーションは、これまでの肉眼での感覚重視の施術から、マイクロスコープ使用による視覚を伴う施術へと大きな変化を遂げました。よく見えるようになると、これまで使用していた器具や方法の問題点が浮き彫りになりました。そこで、使用する器具を変え、方法を改善し、これまで以上に根面や歯周組織に優しく、かつ正確に施術を行えるよう工夫を重ねました。「見える」から問題点に気づき、「見える」からもっと正確に行いたいと思い、「見える」から最低限の侵襲を心がけたいと強く思う。私にとって「見える」ことは「もっと良くしたい！」という原動力に繋がりました。こうしてマイクロスコープのすごさを実感した私は、次に自分が気づいたことを高倍率の拡大映像で患者さんにお見せすることに取り組みました。口腔内に起こった問題点をこれまで以上にリアルに受け取っていただくことで歯の大切さをもっともっと理解して欲しいと思ったからです。実際に行ってみると術者サイドが思う以上に患者さんの心に響きました。映像をお見せしたことによって、歯の大切さやメンテナンスの重要性に気づいてもらえたケース、歯科衛生士の施術を動画でお見せしたことによって信頼が深まったケースなど、多くの患者さんとのストーリーが生まれました。今回の発表では、歯科衛生士が行うマイクロスコープを使用したメンテナンスの重要性や価値をお伝えするとともに、マイクロスコープ映像を通じて患者さんとの信頼関係を築いた症例を発表したいと思います。

1992年 西日本歯科衛生士学院専門学校卒業

2000年 カガミ歯科医院入職

2015年 日本顎咬合学会指導歯科衛生士

2016年 マイクロスコープを使用する歯科衛生士によるスタディーグループ『MDH』設立

2017年 日本顕微鏡歯科学会認定歯科衛生士